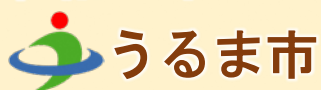


# (仮称)うるま市総合アリーナ 整備基本計画 【概要版】



令和4年10月



うるま市

## 1 計画の背景

具志川総合体育館は市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として長い間親しまれてきましたが、整備から40年以上が経過し、施設の老朽化が進むとともに、耐震性能も十分でないことから、利用者の安全性・利便性を確保するため、再整備が必要な状況にあります。また、公共スポーツ施設として、多様化・高度化するスポーツ環境のニーズへの対応や、近年多発している大規模災害への対応など、社会状況の変化への対応も求められています。

そこで、市民のスポーツ振興・健康増進に資するとともに、防災などの総合的な機能を備えたアリーナを整備することを目的として、「（仮称）うるま市総合アリーナ整備基本計画」を策定します。

## 2 基本コンセプトと整備方針

市民の健康増進と地域活性化に寄与するスポーツ拠点となる新アリーナは、平常時はスポーツやイベントを通じたにぎわい創出の拠点、そして災害発生時には人々の安心・安全を守る防災拠点としての役割が期待されることから、以下の基本コンセプトと整備方針を掲げます。

### ■基本コンセプト

**うるまの“元気”を生み、“もしも”を守る拠点**

**（仮称）うるま市総合アリーナ**

### ■整備方針

- 多様なスポーツへの関わりを通じて、心身ともに健康になる施設
- 様々な災害に対応した、人々の安心・安全を守る施設
- 交流を促進し、地域の活性化につながる施設

心身の健康

新アリーナ

地域活性化

安心・安全

### 3 施設整備地

新アリーナについては、具志川運動公園の地形や立地環境、既存の施設及び駐車場の整備状況、周辺の道路環境などを考慮し、現具志川総合体育館ならびに具志川総合グラウンドの敷地に整備することが望ましいと考えられます。



### 4 導入機能と主要施設の想定規模

新アリーナに導入すべき機能と、主要施設の想定規模を以下のとおり整理しました。

#### ■ 導入機能

- ①スポーツ振興機能    ②健康増進機能    ③防災機能    ④交流・地域活性化機能

#### ■ 主要施設の想定規模

導入施設		施設規模・使用用途等
アリーナ	メインアリーナ	バスケットボール3面、バレーボール4面、バドミントン12面、卓球20面、ハンドボール1面、フットサル1～3面
	観客席・ランニングコース	固定席 約2,000席、ランニングコース幅約3m
	サブアリーナ	バスケットボール1面、バレーボール2面、バドミントン4面、卓球6面、フットサル1面
プール	プール	メインプール25m×8コース、幼児向けプール
共用部	トレーニング室	フィットネスマシンや体力測定機器など
	多目的室	武道・卓球・スタジオ利用、会議室利用、4室（2室連結利用可能）
	休憩スペース	利用者の休憩利用や交流スペース、プールの見学ラウンジ
	キッズルーム・授乳室	キッズルーム1室、授乳室2室
管理	防災備蓄倉庫	2,000人×3日分の食料、飲料水、その他備蓄品の備蓄
外構	広場	日常の憩い空間・コミュニティ形成の場
	駐車場・駐輪場	通常利用約450台、大会等開催時約900台

## 5 防災拠点としての役割・機能

新アリーナは規模や立地、周辺の状況などから、避難所としての期待が高いと考えられるため、「指定避難所」に指定し、中長期の避難生活の場を提供できる施設としていくことが望ましいと考えられます。

また、アリーナ内に非常用発電機を設置し、停電時においても空調等の必要設備が稼働可能とすることで、最大約2,000人の熱中症対策が必要な要配慮者\*の方を受入可能とすることを想定します。

防災設備については、非常用発電設備や備蓄倉庫を設置するほか、プールの水は生活用水として使用します。また、広場には防災トイレ、かまどベンチ、屋外コンセントの設置を想定します。

\*熱中症患者のおよそ半数である65歳以上の高齢者の方や、体温の調節機能がまだ十分に発達していない子ども、障害者の方を想定

### ■ 災害時の諸室利用

	諸室名	災害時の使用用途
アリーナ	メインアリーナ(競技場面)	避難所
	観客席・ランニングコース	観客席：避難所（一時避難のみ） / ランニングコース：避難所
	サブアリーナ（競技場面）	避難所
	審判員控室	待機室等予備室
	中会議室（運営会議室）	子どもの遊び部屋や学習室
プール	プール	生活用水利用
共用部	多目的室	避難所（高齢者、障害者、乳幼児等の要配慮者）
	休憩スペース	1階：ボランティア受付・運営職員待機所 / 2階：避難所
	医務室	医療事務
	キッズルーム	避難所（乳幼児等の要配慮者）
	エントランス・廊下等	受付、情報収集等
管理	管理事務室	災害対策本部事務局（事務室一部）
	防災備蓄倉庫（防災機能）	物資保管
	応接室	健康等の生活支援等の相談窓口
	小会議室	救援救護スペース
園地	広場	物資供給場所、炊き出しスペース等
	駐車場・駐輪場	一時避難場所、救援車両駐車場、屋外救援救護スペース

### ■ 防災設備

配置場所	設備	用途・目的	規模（想定）
新アリーナ	非常用発電設備	照明、コンセント、換気、空調、ポンプ等で使用	72時間稼働
	備蓄倉庫	防災備品、食料品・飲料水、衛生用品等を備蓄	2,000人×3日分
	プール（生活用水）	トイレ排水等で使用	2,000人×3日分
	耐震性受水槽	避難所開設までのトイレ排水等（断水時）で使用	2,000人×3日分 約18t以上（9L/日・人）
	緊急汚水層	下水管の破断時に使用	2,000人×3日分
広場	防災トイレ	屋内のトイレが不足した際や、上水管の破断時に使用	適宜
	かまどベンチ	炊き出し用かまど	適宜
	屋外コンセント	適宜	適宜



【非常用発電設備】



【防災トイレ】



【かまどベンチ】

写真：神栖市 かみす防災アリーナ

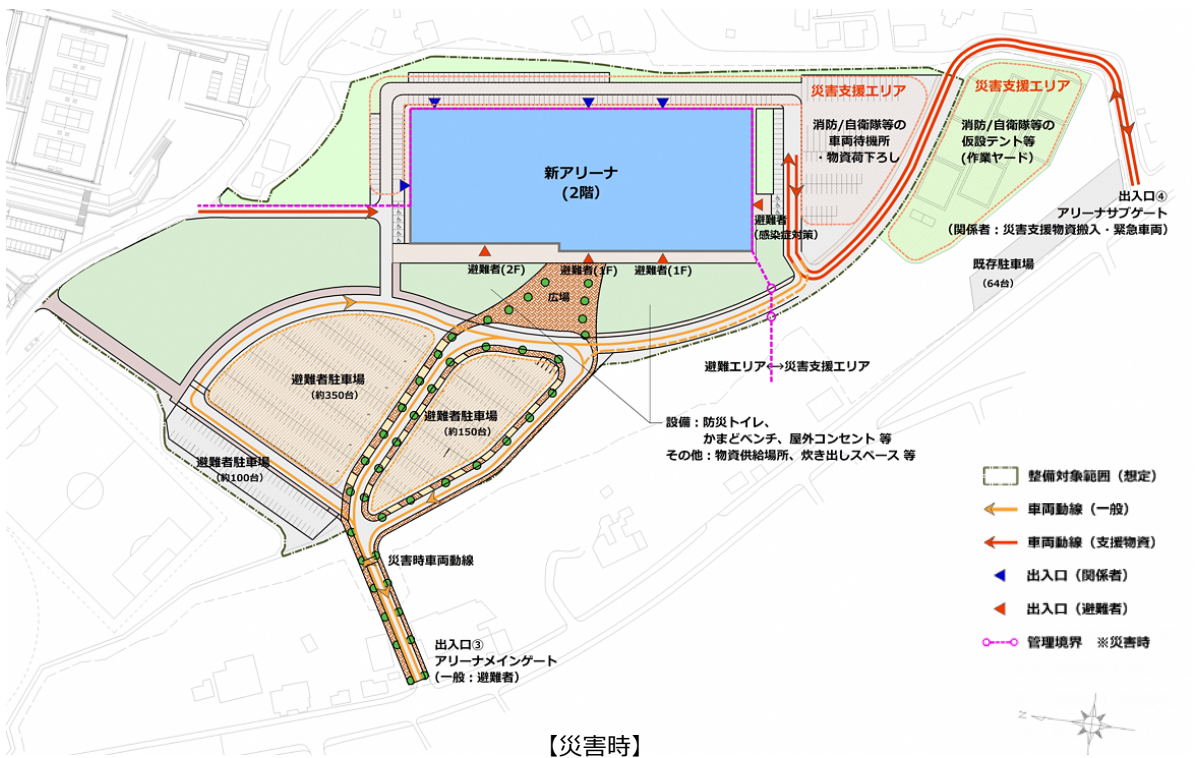
# 6

## 配置案と動線（通常時・大会時、災害時）

施設配置と動線について、にぎわいのある正面性の確保、既存施設との連携が行いやすい駐車場配置、大会時・災害時における建物、広場、駐車場の機能的な配置などの観点から整理しました。



【通常時・大会時】

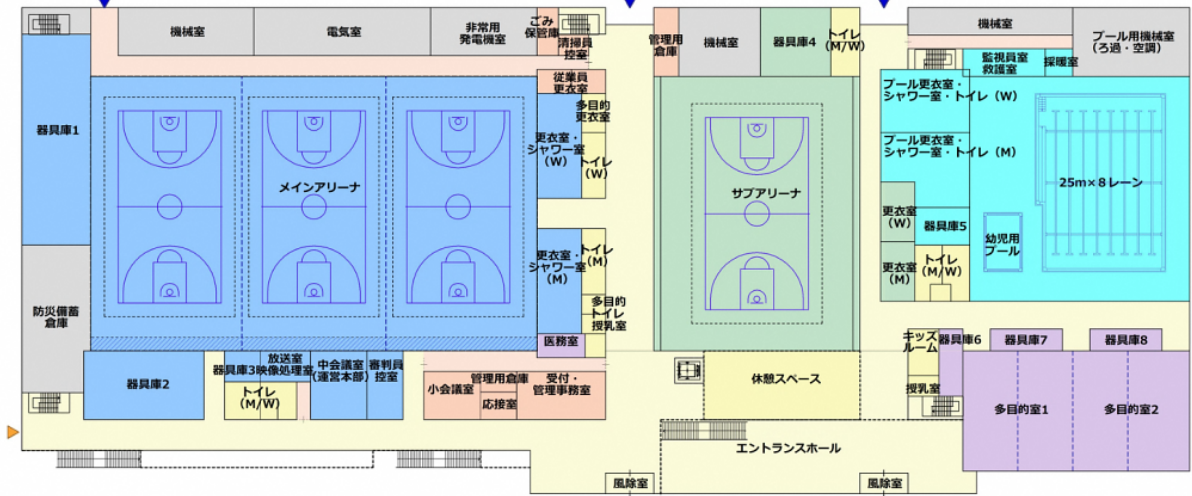


【災害時】

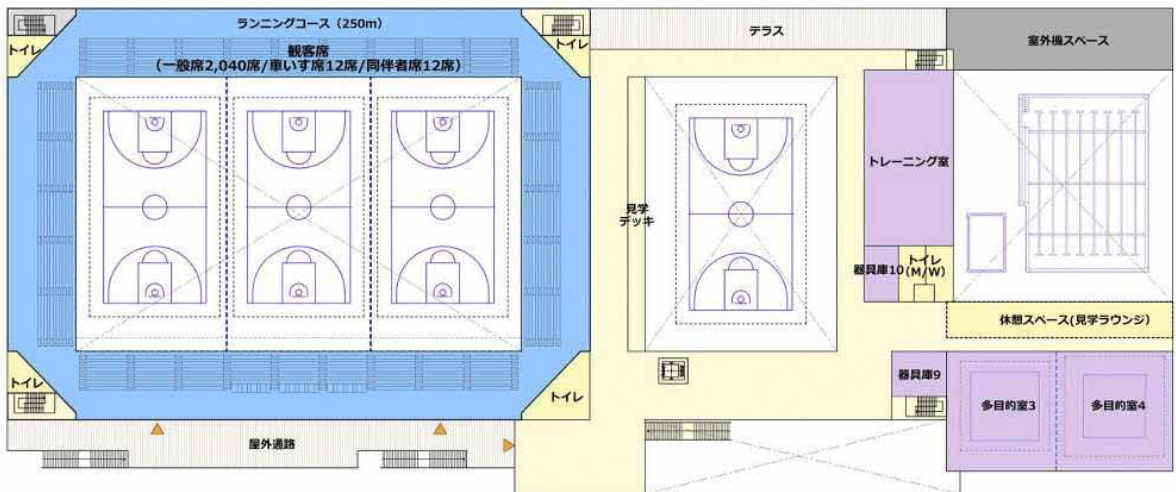
## 7 施設平面図（モデルプラン）

各階のレイアウト（モデルプラン）は以下のとおりです。

### ■施設平面図（通常時・大会時）



【1階平面図】



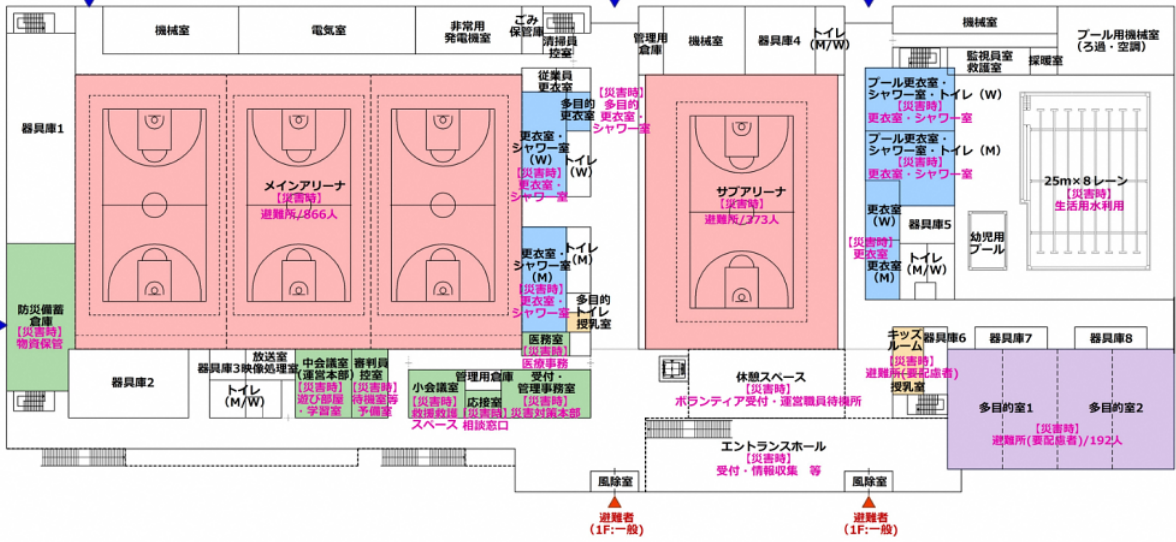
【2階平面図】

	面積
1階面積	約 11,810 m <sup>2</sup>
2階面積	約 6,110 m <sup>2</sup>
延床面積	約 17,920 m <sup>2</sup>

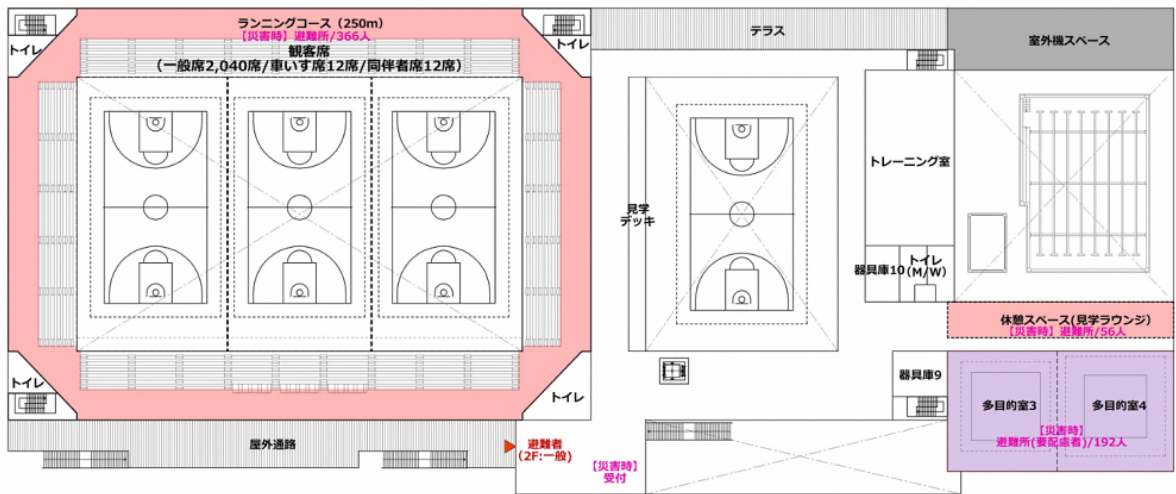


## ■施設平面図（災害時）

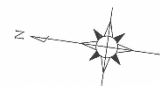
中長期の避難生活を想定した指定避難所としての、災害時の各階レイアウト及び収容人数は以下のとおりです。



【1階平面図】



【2階平面図】



諸室	階	面積	収容人数	備考
メインアリーナ	1階	2,600 m <sup>2</sup>	866人	
サブアリーナ	1階	1,120 m <sup>2</sup>	373人	
多目的室 1.2	1階	578 m <sup>2</sup>	192人	要配慮者想定
多目的室 3.4	2階	578 m <sup>2</sup>	192人	要配慮者想定
ランニングコース	2階	1,100 m <sup>2</sup>	366人	
休憩スペース	2階	170 m <sup>2</sup>	56人	
合計			2,045人	≥2,000人

- 避難所（一般）
- 避難所（要配慮者）
- 更衣室・シャワー室
- 乳幼児・授乳室
- 避難所運営施設
- 出入口（避難者）
- 出入口（関係者）

※一般避難者：3m<sup>2</sup>/人換算（避難スペース2m<sup>2</sup>/人+通路1m<sup>2</sup>/人）

## 8 整備イメージ

※本図は参考イメージです。



【鳥瞰イメージ】



【エントランスイメージ】

## 9 整備手法と整備スケジュール

本事業の整備・運営において考えられる事業手法と整備スケジュールについて整理しました。

年度 手法	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
従来方式	アリーナ・園地 基本設計	アリーナ・園地 実施設計		アリーナ・園地整備		アリーナ供用	
DB方式	アリーナ・園地 基本設計 事業者公募・選定	アリーナ・園地 実施設計		アリーナ・園地整備		アリーナ供用	
PFI方式	アリーナ・園地 基本設計 事業者公募・選定	アリーナ・園地 実施設計		アリーナ・園地整備		アリーナ供用	

(仮称)うるま市総合アリーナ整備基本計画 【概要版】

企画・編集：うるま市企画部プロジェクト推進 1 課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目 1 番 1 号

TEL : 098-973-5373 FAX : 098-979-7340 URL : <http://www.city.uruma.lg.jp>